

木材需給動向について (中部地区)

2021年9月
林野庁

全国の木材需給動向について、
林野庁ウェブサイト（下記URL）にて
毎月資料を更新しています。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/ryutsu/kyougikai.html>
（QRコードからもアクセスできます。）



目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギ（中部地区）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・中部地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

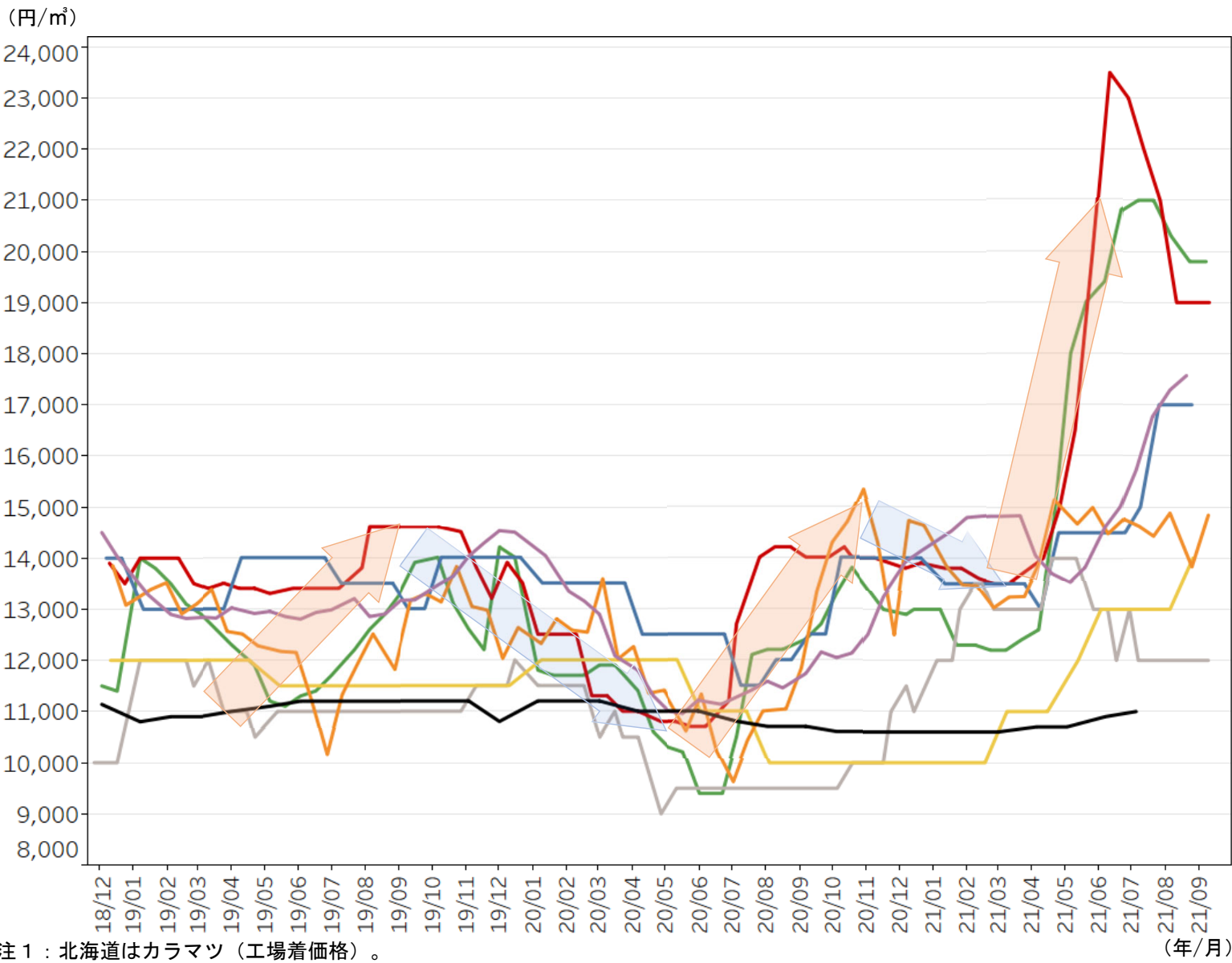
3 住宅着工戸数の動向

(1) 全国の住宅着工戸数

(2) 中部地区の住宅着工戸数

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)
ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 2021年に入ってから、例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、上昇が見られる地域が多く見られる。九州地域では価格が高騰したが、直近では下落傾向も見られる。
- 直近のスギ原木価格は、前年同期比25%から60%増となっている。



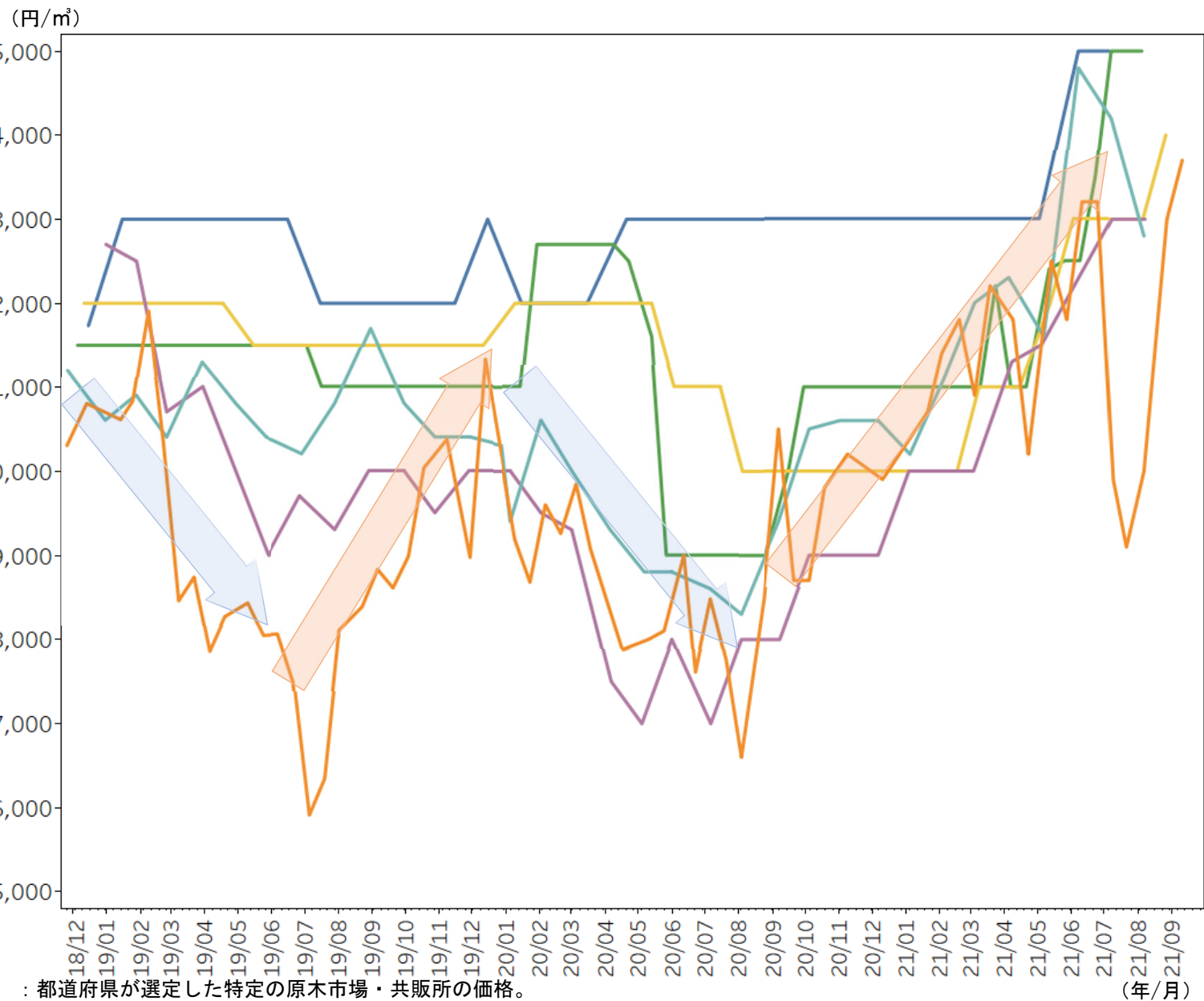
都道府県	2021年直近※	前年同期	前年同期比
北海道	11,000	10,800	2%
秋田県	17,570	11,450	53%
栃木県	14,840	11,840	25%
長野県	14,000	10,000	40%
岡山県	12,000	9,500	26%
高知県	17,000	12,000	42%
熊本県	19,000	14,000	36%
宮崎県	19,800	12,400	60%

※栃木県、岡山県、熊本県及び宮崎県については9月、秋田県、長野県及び高知県については8月、北海道については7月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

イ スギ（中部地区） 径24cm程度、3.65～4.0m（2018年12月～）

- 2021年に入ってから、例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、上昇が見られる地域が多く見られる。
- 直近のスギ原木価格は、対前年比15%から67%増となっている。

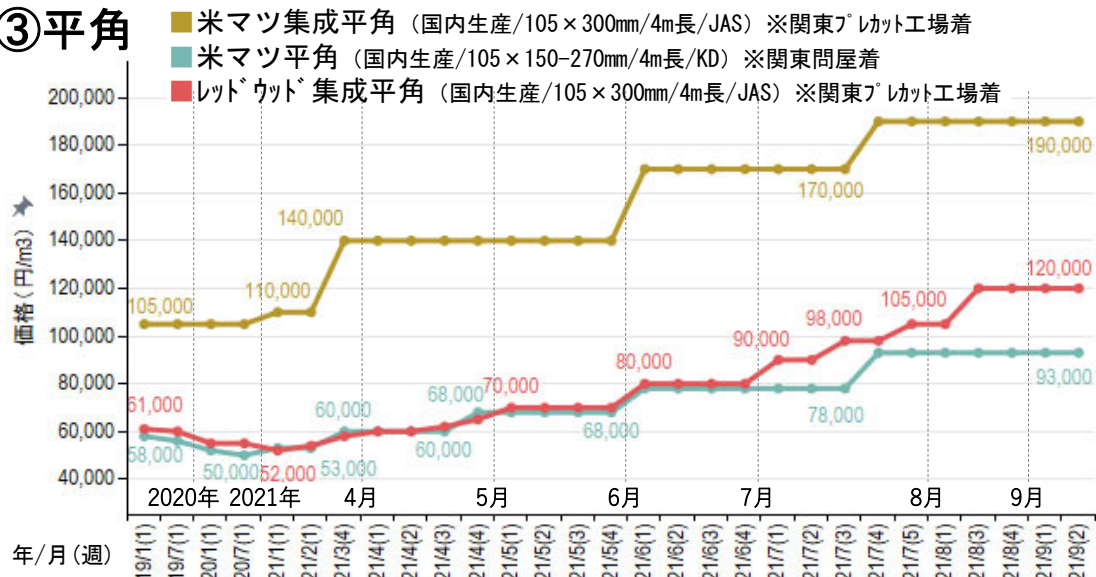
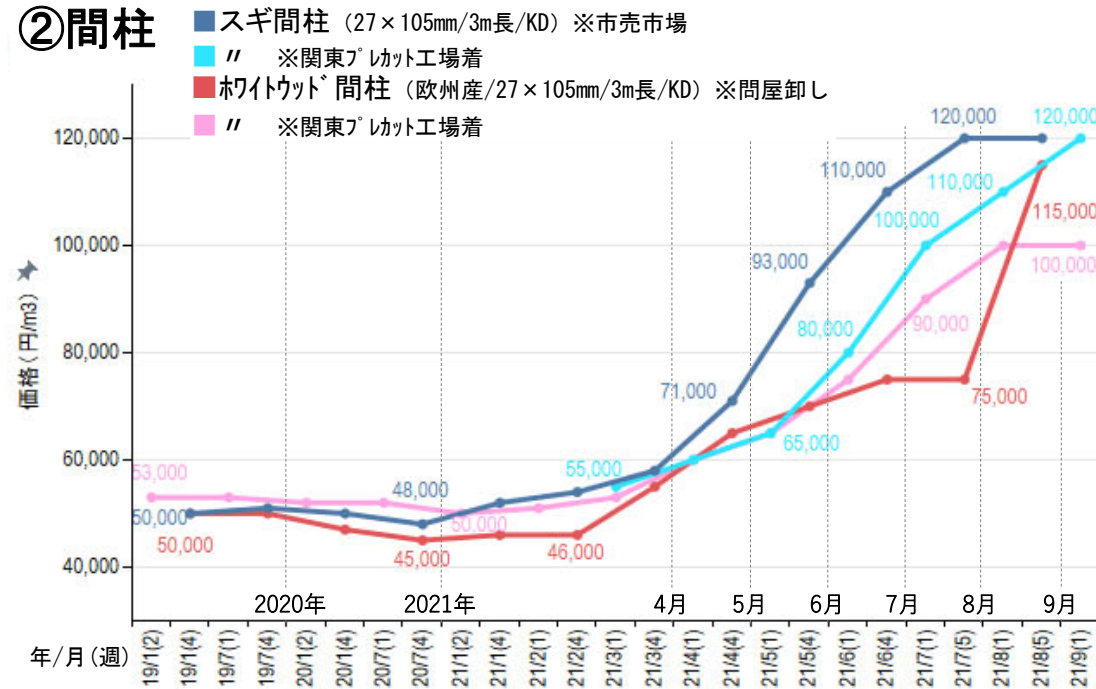
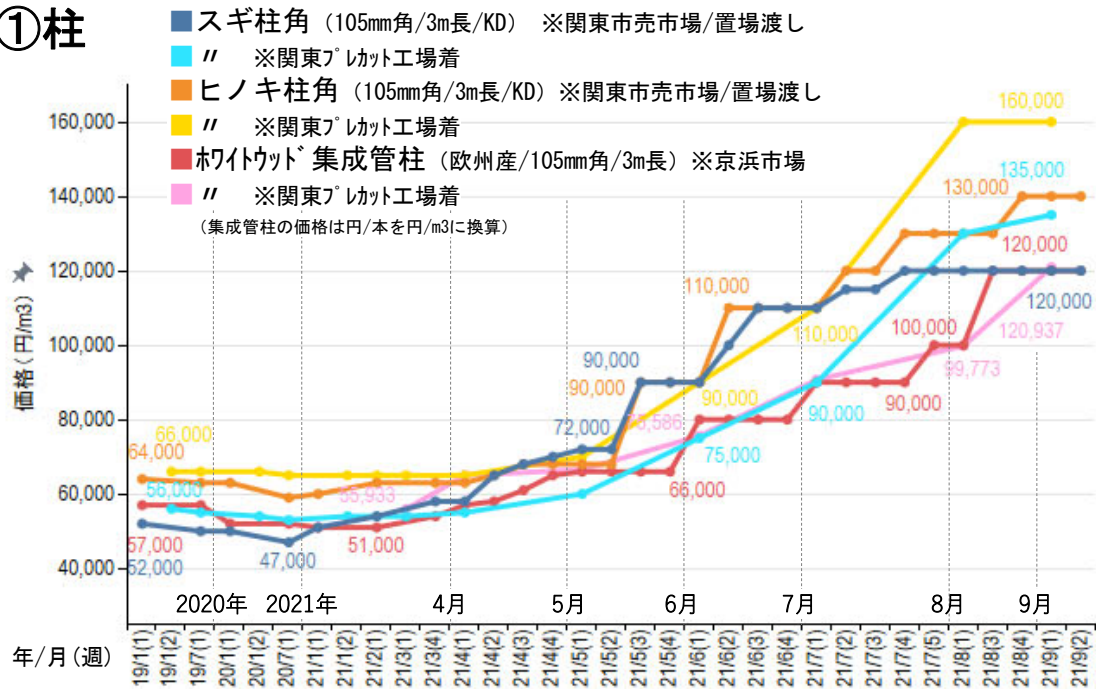


都道府県	2021年直近※	前年同期	前年同期比
富山県	13,700	10,500	31%
石川県	12,800	8,300	54%
福井県	13,000	8,000	63%
長野県	14,000	10,000	40%
岐阜県	15,000	9,000	67%
愛知県	15,000	13,000	15%

※富山県については9月、石川県、福井県、長野県及び岐阜県は8月、愛知県道については7月の値を使用。

(2) 製品価格

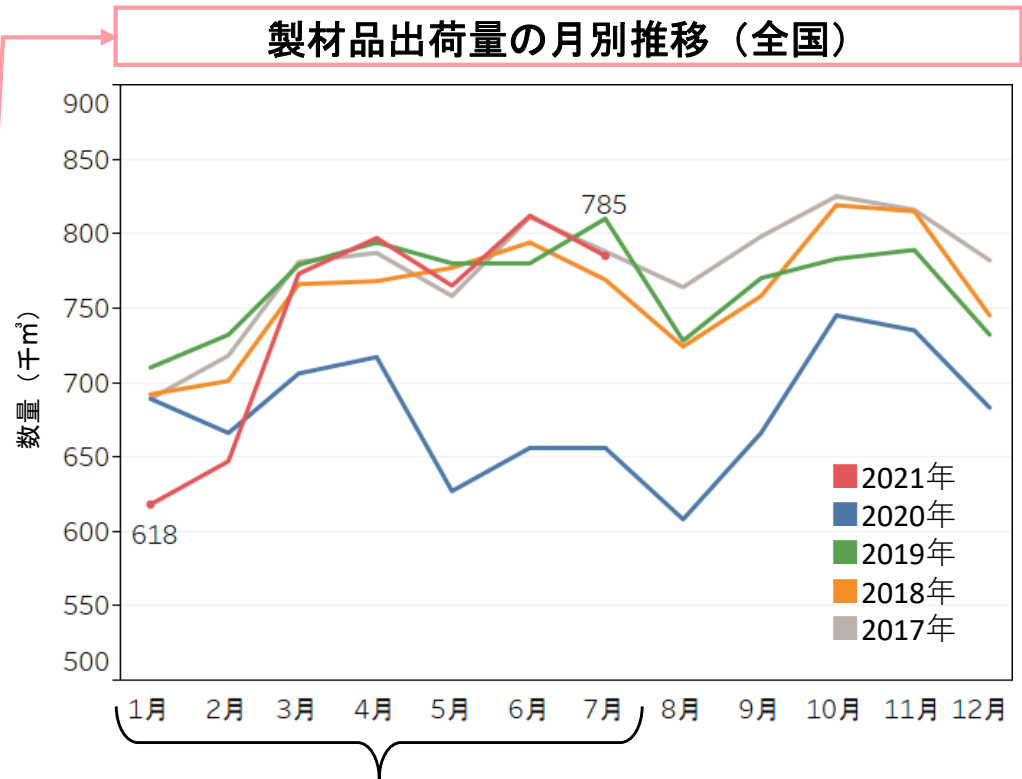
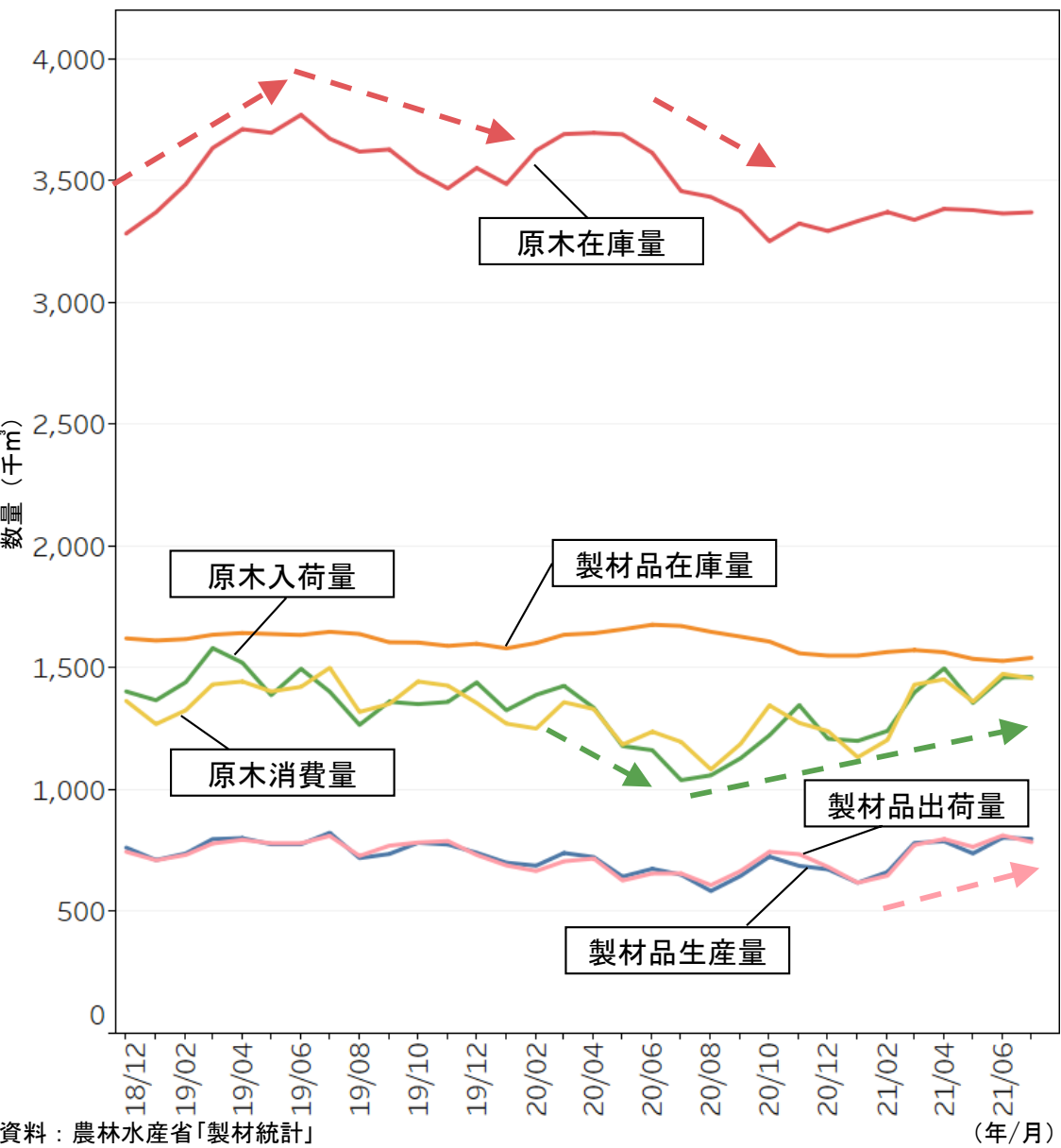
- ・ 輸入材製品価格は、北米、中国、欧州など世界的な木材不足に加え、コンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- ・ 国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇が続いている。



2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

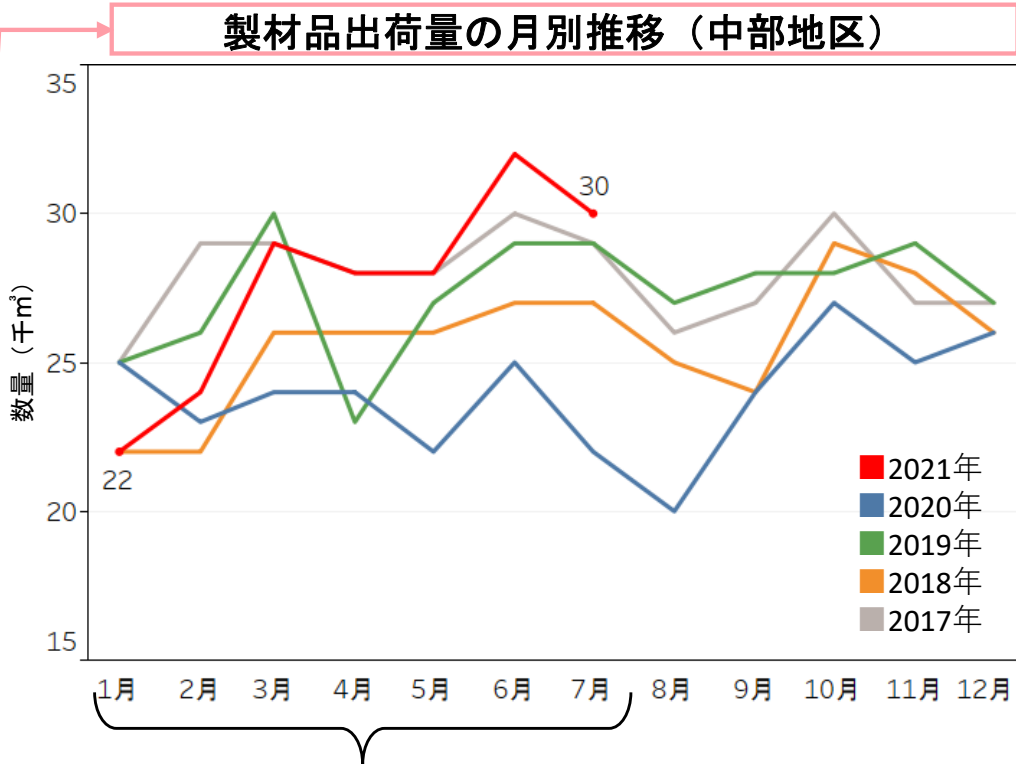
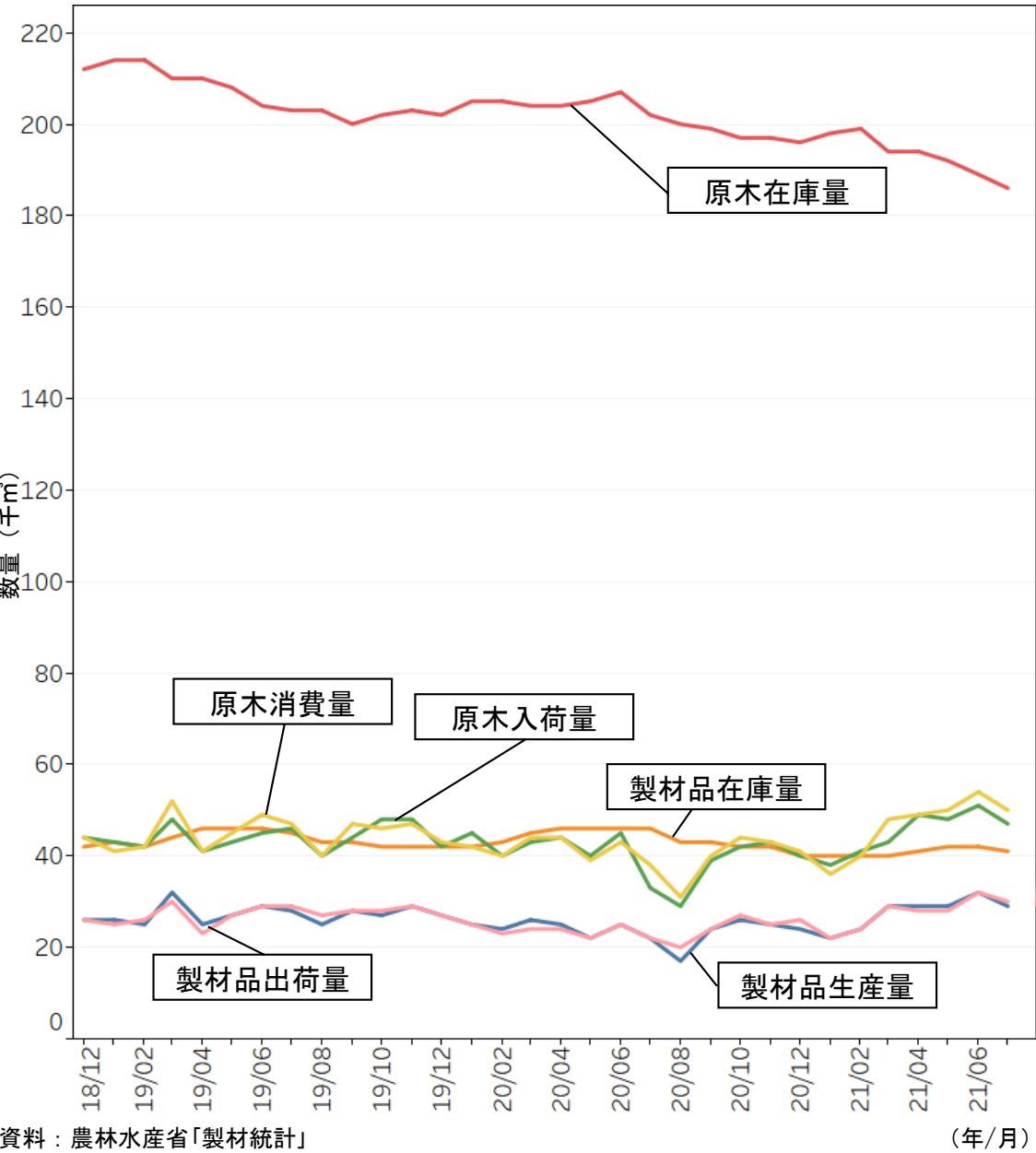
- ・ 製材品の生産量及び出荷量は、2021年1月から増加傾向。コロナ感染拡大前の水準となっている。
- ・ 原木の入荷量及び消費量においても、2021年1月から増加傾向。



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～7月出荷量 伸び率	14%	11%	14%	-5%	27%
1～7月出荷量 合計 (千 m^3)	5,332	5,267	5,385	4,717	5,197

(1) 製材（中部地区）

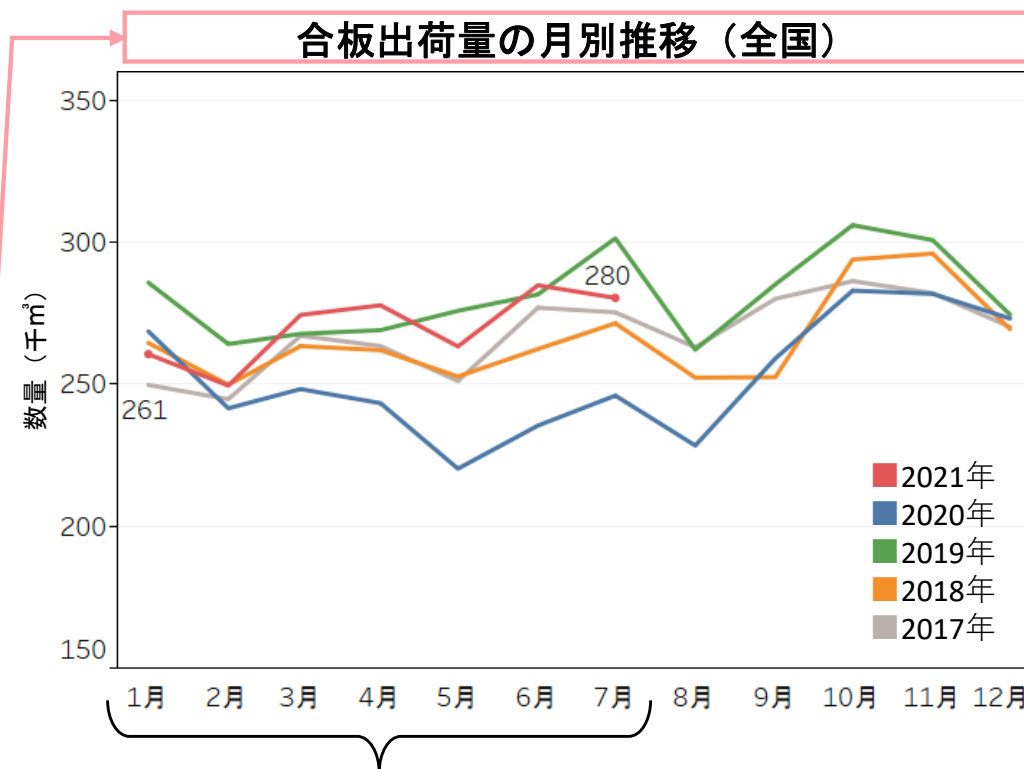
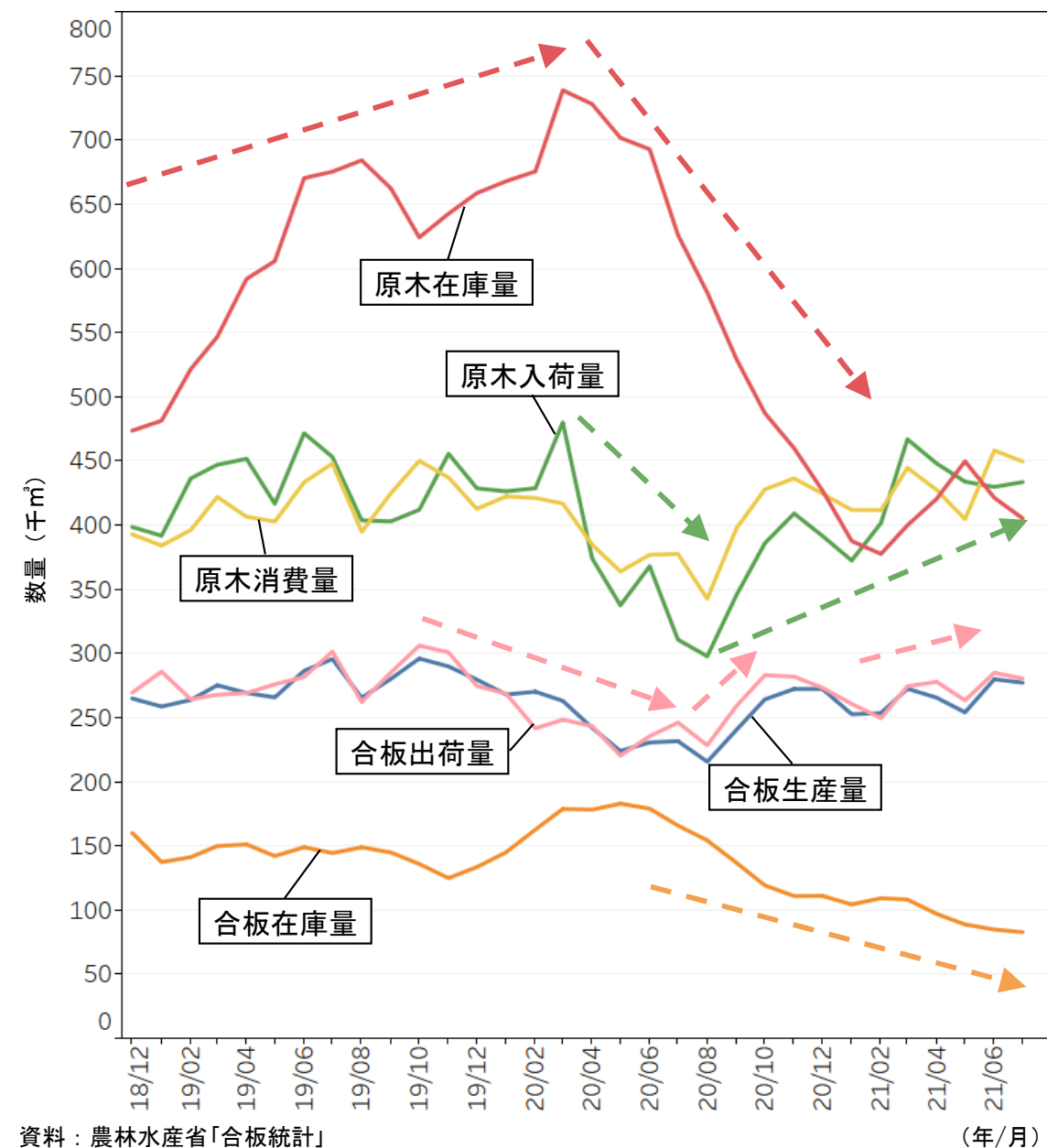
- 中部地区の製材品の生産量及び出荷量については、2021年2月から増加傾向。その後も高いレベルで推移。
- 原木の入荷量及び消費量は、2021年2月から増加傾向だったが、7月にはやや低下。



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～7月出荷量 伸び率	16%	23%	16%	-12%	36%
1～7月出荷量 合計(千m3)	198	176	189	165	193

(2) 合板（全国）

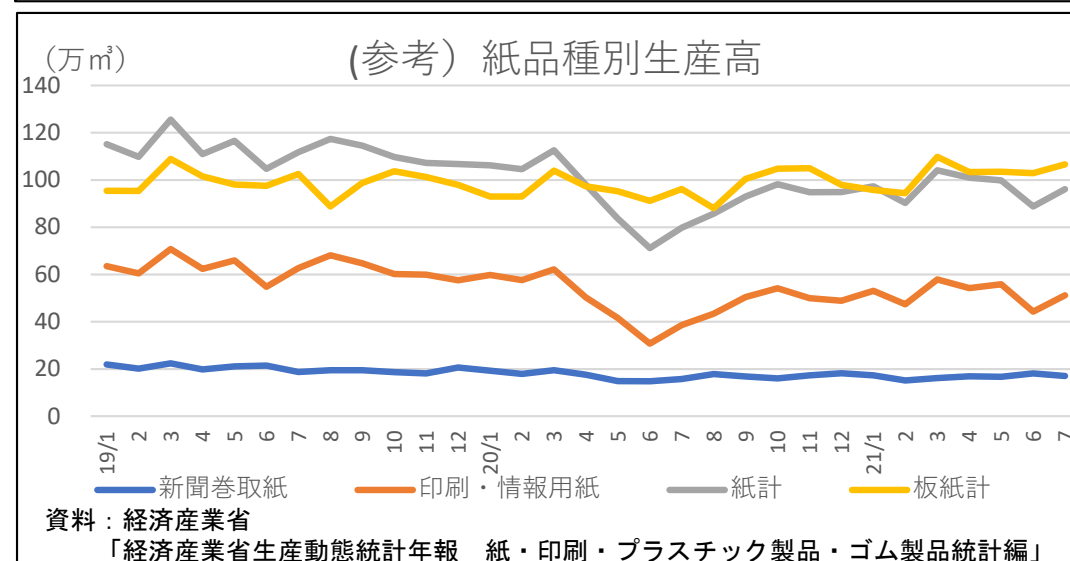
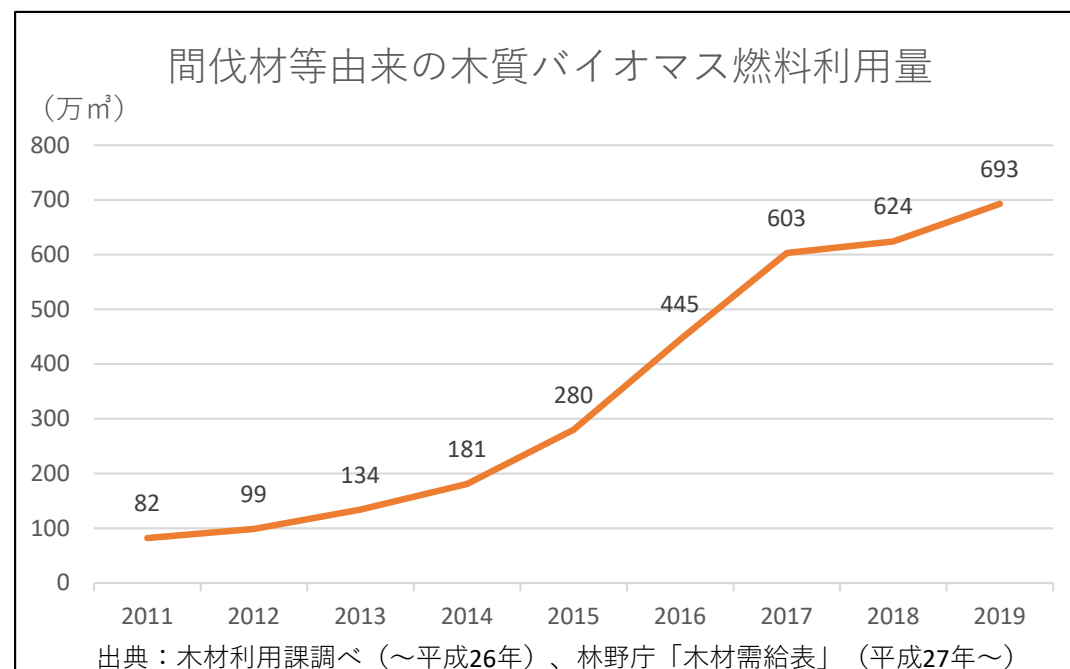
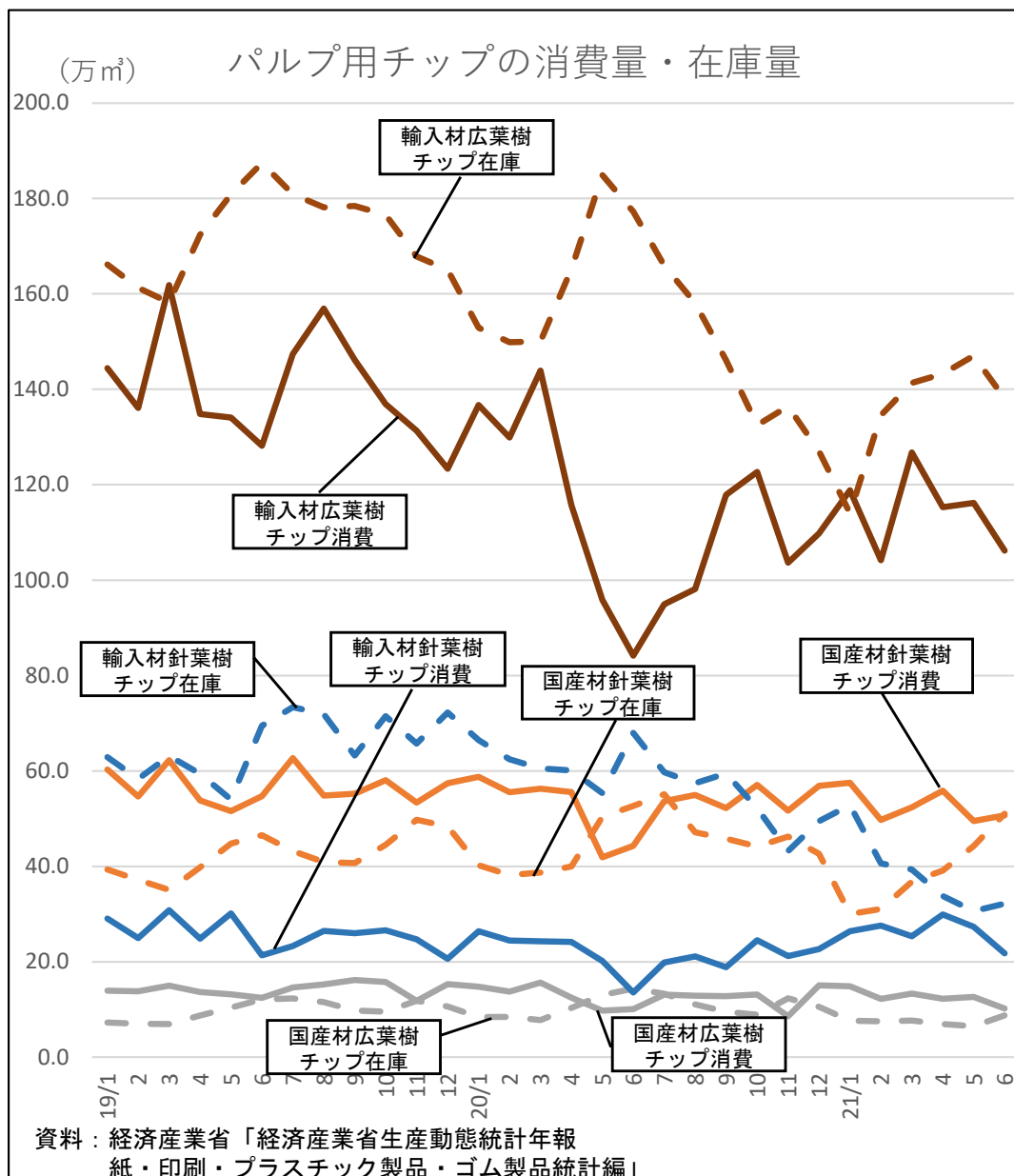
- 合板の生産量及び出荷量は、2021年2月から増加傾向。コロナ感染拡大前の水準となっている。一方、在庫量は2020年6月以降減少傾向で推移。
- 原木の入荷量・消費量は、2020年9月以降、上昇傾向にある。



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～7月出荷量 伸び率	10%	3%	5%	-8%	8%
1～7月出荷量 合計(千m³)	1,828	1,826	1,945	1,703	1,890

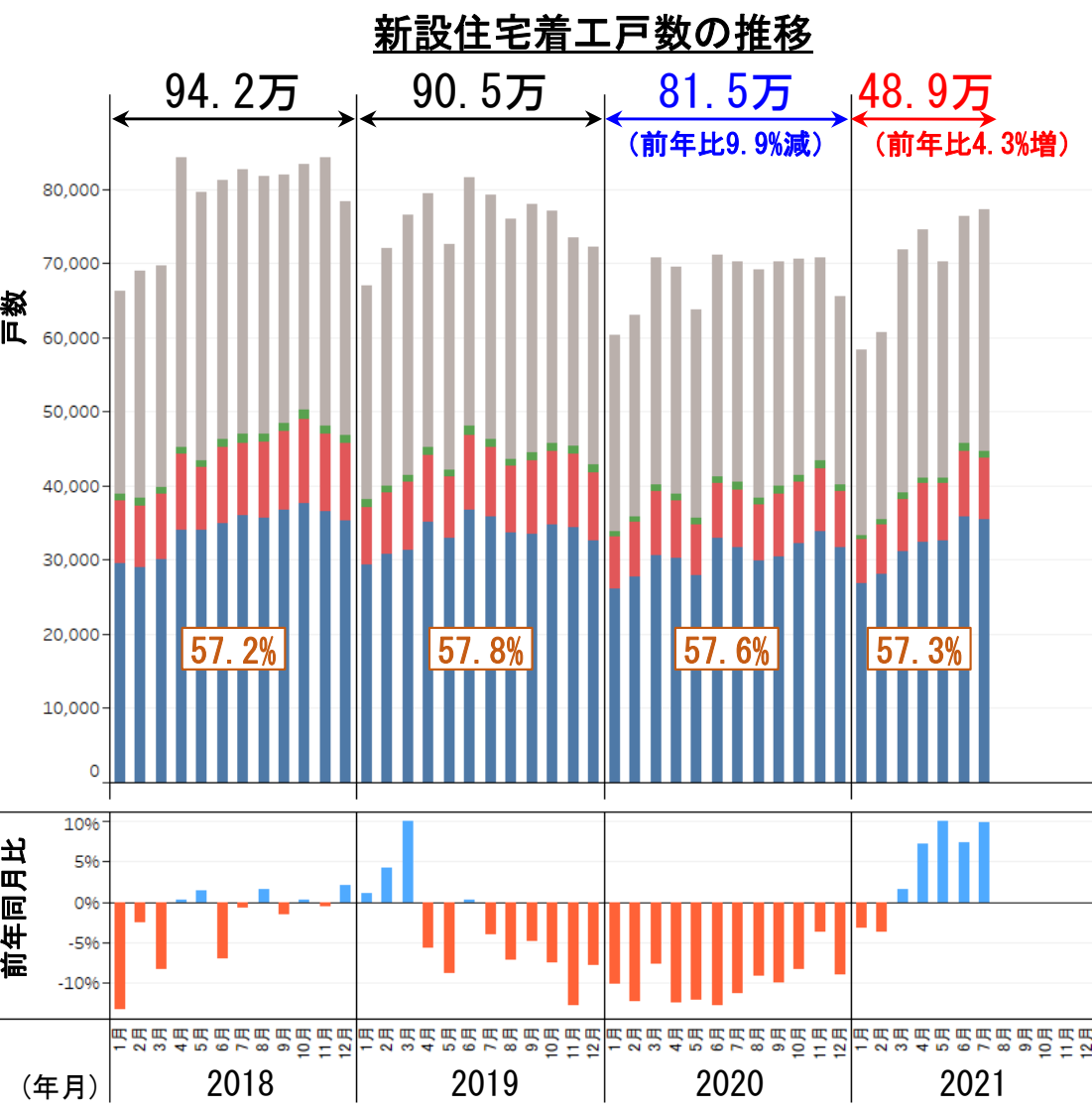
(3) チップ（全国）

- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。

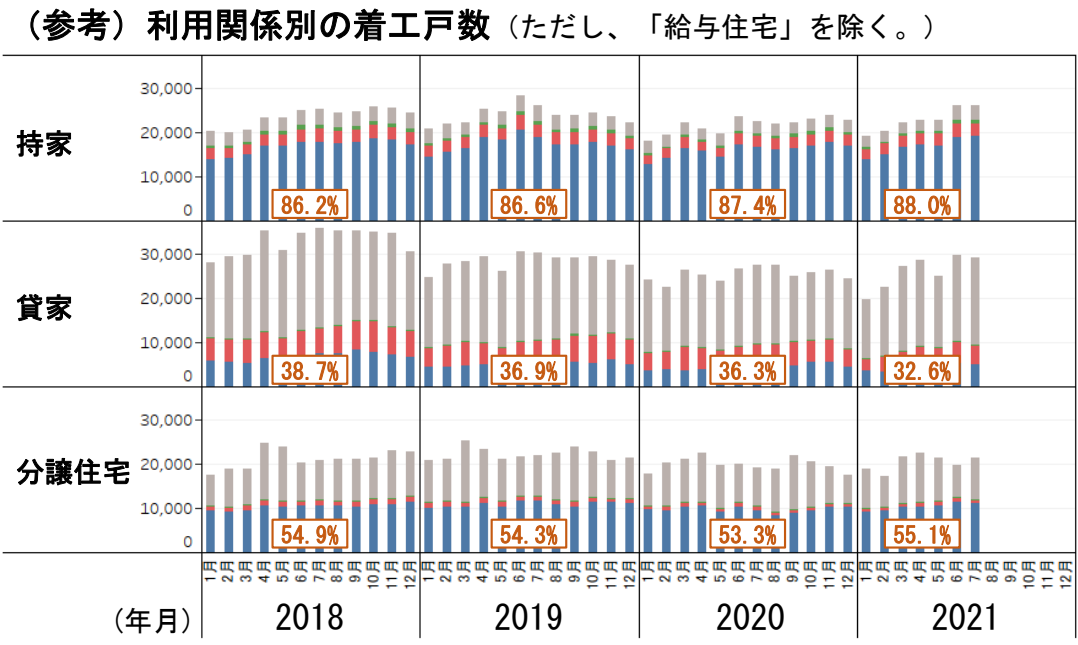


3 住宅着工戸数の動向 (1) 全国の住宅着工戸数 (2018年1月～2021年7月)

- 2020年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比9.9%減）、このうち木造住宅は46.9万戸（同10.3%減）。
- 2021年1～7月の新設住宅着工戸数は、48.9万戸（前年比4.3%増）、このうち木造住宅は28.0万戸（同5.5%増）。
- 2020年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。
（※2009年の新設住宅着工戸数は前年比28%減となった。）



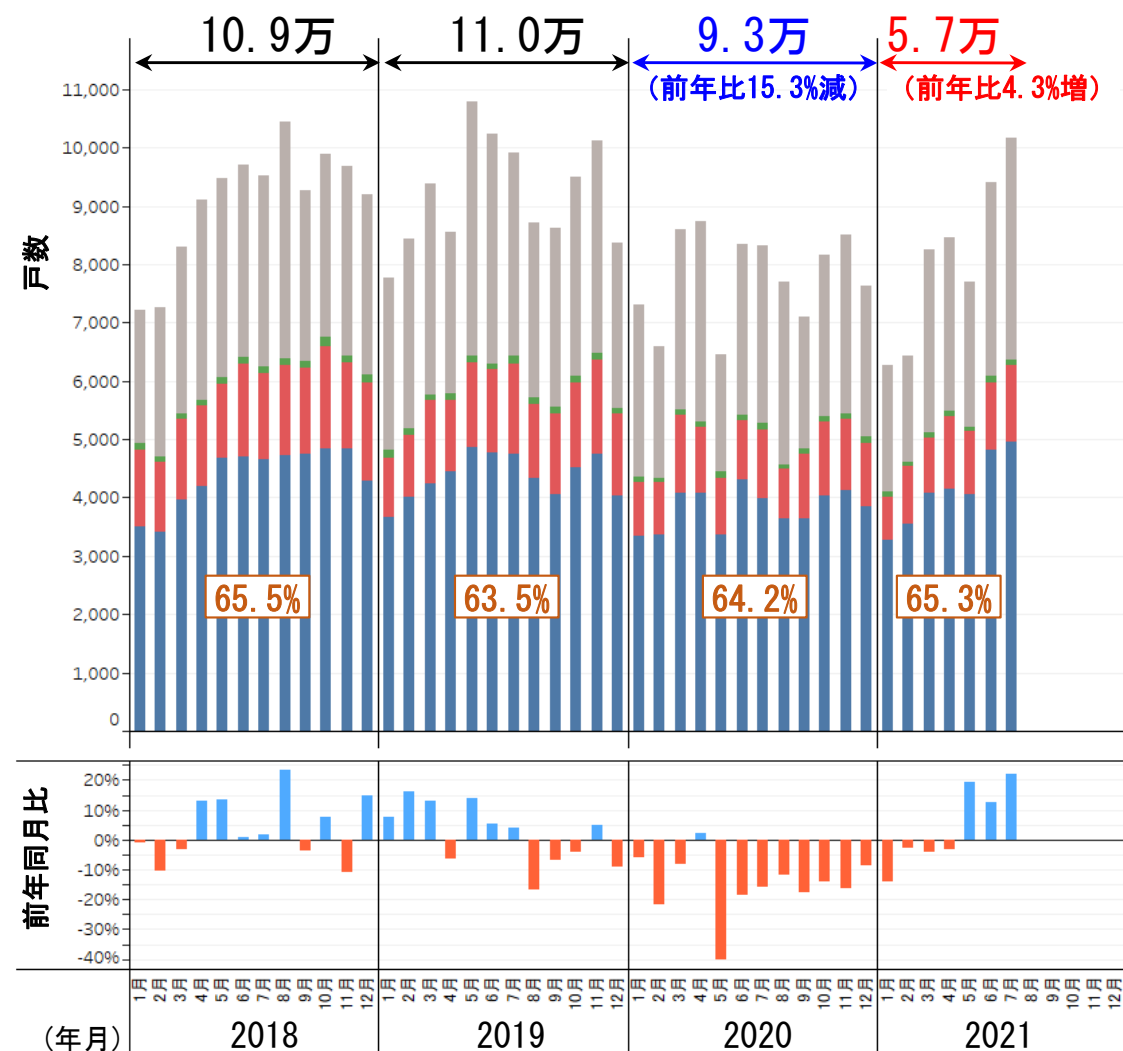
構造別の着工戸数	2021年 1～7月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	489,192	468,927	4.3%	528,354	-7.4%
■ 非木造	208,715	202,964	2.8%	226,993	-8.1%
■ 木造	280,477	265,963	5.5%	301,361	-6.9%
■ 木造プレハブ	5,567	6,075	-8.4%	7,012	-20.6%
■ 2×4	52,430	52,576	-0.3%	61,889	-15.3%
■ 在来軸組	222,480	207,312	7.3%	232,460	-4.3%
□ 木造率	57.3%	56.7%		57.0%	



(2) 中部地区の住宅着工戸数（2018年1月～2021年7月）

- 2020年の新設住宅着工戸数は、9.3万戸（前年比15.3%減）、このうち木造住宅は6.0万戸（同14.4%減）。
- 2021年1～7月の新設住宅着工戸数は、5.7万戸（前年比4.3%増）、このうち木造住宅は3.7万戸（同6.8%増）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2021年 1～7月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	56,668	54,351	4.3%	65,044	-12.9%
■ 非木造	19,686	19,714	-0.1%	24,331	-19.1%
■ 木造	36,982	34,637	6.8%	40,713	-9.2%
■ 木造プレハブ	637	638	-0.2%	808	-21.2%
■ 2×4	7,486	7,462	0.3%	9,169	-18.4%
■ 在来軸組	28,859	26,537	8.8%	30,736	-6.1%
□ 木造率	65.3%	63.7%		62.6%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）

